

マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* SELYS

17 VII 1982 羽化殻 2 ♀ 1 C湿地

29 VII 1982 // 1 ♀ 1 //

成虫はきべりはむし第8巻第1号に報告したが、その後は採集、目撃もない。

ギンヤンマ *Anax parthenope* BRAUER

個体数は多いが、A, B, C, 湿地には羽化殻が見られない。発生すると見られる農業用の池は、立入禁止のため羽化殻を採集していない。

クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* OGUMA

13 VI 1982 羽化殻 ♂ 1 B湿地

6 V 1984 // ♂ 3 ♀ 5 //

B, C湿地を、パトロールするのをよく見るが♀はまだ見たことがない。

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* SELYS

13 V 1984 羽化殻 12 A湿地

// // 2 B湿地

本種の個体数は多く、A, B, C湿地の他に雨の降った時だけ水のある湿地にも発生しているようである。

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare* SELYS

C湿地に、成虫、羽化殻の個体数が多い。

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* SCHIDT

羽化殻は発見していないが、B, C湿地に縄張り、交尾、産卵を観察している。

○参考文献 石田昇三 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編 保育社

## 兵庫県未記録のコメツキムシ

岸 井 尚

兵庫県下からのコメツキムシについては筆者(1984)が本誌上(Vol.12, No. 1, 2)に高橋寿郎氏の蒐集標本を中心に、これまでの記録を含めてまとめたものが126種あるが、その後、有本久之氏(1985)がやはり本誌上(Vol. 13, No. 1)で5種追加した。また筆者は勤務校の研究論集(Bull Heian High Sch., 29, 1985:28~29)に新種*Actenicerus ashiaka*を記載した際、そのパラタイプ標本として1雌を明石産(1970年5月5日, 高橋寿郎氏採集)で記録

したので、これまでに計132種のもが本県下から知られていることになる。

今回、高橋寿郎氏が環境調査の際、三木市細川中で得られた微小なコメツキムシ若干の同定を依頼されたが、これには2種のもが含まれ、いずれも兵庫県下未記録のものであるので報告するものであり、種名等は下記の通りであるが、これからも微小種、特にミズギワコメツキ亜科に入るものから未記録種、あるいは新しいものが相当発見される可能性があるものと思われる。

終りに度々にわたり貴重な資料をお送りいただき、又本誌に発表する機会を与えられた高橋氏に深く謝意を表すものである。

*Quasimus (Quasimus) jissunboushi* KISHII, 1966

ケンチビマメコメツキ, 4 exs

*Quasimus (Quasimus) kyotoensis* KISHII, 1966

キョウトチビマメコメツキ, 4 exs

何れも三木市細川中、1985年7月11日、高橋寿郎氏採集品である。標本は筆者が保管している。なお前者はこれまで京都、岡山両県下から記録があるのみで、後者は分布が広く石川、愛知、京都、奈良、和歌山、岡山、高知、福岡などから得られている。

## ミヤコアラハダチャイロコメツキ 宝塚に産す

岸 井 尚

1985年11月の下旬頃宝塚の方からお電話を頂戴いたし、高橋寿郎氏からの紹介でコメツキムシの同定をしていただきたいが、この12月15日に大阪長居自然科学博物館での甲虫学会に持参しますから宜しくとの事で、当日お会いしたのが新家 勝氏であった。同氏持参の標本は10数頭のもので灯火によく集まる、いわば普通種であったが、中に1頭大変な珍種が入っていたのに驚いた。小生が1969年に記載した *Ectamenogonus miyako* ミヤコアラハダチャイロコメツキと思われる新鮮な個体が台紙にのっていたのであるが、見た瞬間 *miyako* と判ったが、念の為帰って詳細に検鏡した所間違いなかったが、小生としては初めてみる雄の個体であった。生殖器は近似のアラハダチャイロコメツキ *E. rugipennis* と比し側片先端部が明瞭に長三角形で明らかに異なっていた。

この種は筆者が記載して以来長く再報がなく、最近保育社から出版された“原色日本甲虫図鑑(Ⅳ)”のp.72, Pl.13, fig.2に原色図が紹介されたが、データ記録はみられないもので、当日参会された渡辺昭彦、有本久之両氏と共に本種について話題にしていた所へ、出現したもので皆一様に驚いたも